

## →怨霊から御霊になった早良親王(崇道天皇)と御霊信仰

2017. 12. 10(日)カルチャーウォーキング

関西文学散歩第 529 回 参加報告

奈良町御霊神社の名称は、正式には御霊神社で、「奈良町」の冠は付かない。京都に上御霊神社・下御霊神社があり、他所にも〇〇御霊神社がある。これらと区別するために、便宜的に本会は冠を付けて説明するということだった。奈良市内の都市景観形成地区である「奈良町」あるいは「ならまち」と呼ばれる界隈の、真ん中あたりに件の御霊神社はある。回りには、名だたる寺院に挟まれて「ならまち格子の家」「奈良町からくりおもちゃ館」「なら工藝館」「大乘院庭園文化館」「杉岡華邨書道美術館」などの見学施設があるが、そういうスポットには目もくれない。テーマに沿って雑念となるものは見学せずに置いていく、というのがこの会の考え方で、これもまた良い。しかし、時には「ついでですから、せっかくですから…」と、人気スポットに立ち寄ることもある。本日も、鎮宅霊符神社の隣である「奈良町からくりおもちゃ館」には立ち寄り、テーマ前章としてしばし童心を慰めたのだった。

御霊神社では、若宮司さんがお話をして下さった。元々、ここには聖武天皇の第一皇女で、光仁天皇の皇后となった井上皇后を祀る井上神社があり、彼女を鎮魂する御霊会が行われていたそうだ。後年に、息子の他戸皇子、桓武天皇の弟の早良親王など、前に紹介した六所御霊と事代主神が合祀され、現在の地に遷宮したというお話であった。そして、井上皇后は、ここから南へ徒歩 10 分ほどの地で、井上神社として単独で祀られていた。



井上神社にて

その井上神社の南側に、早良親王を祀る崇道天皇社が鎮座している。早良親王は長岡京造営長官の藤原種継暗殺事件に関与したとして捕えられて乙訓寺に幽閉され、その後、淡路島へ配流となる。その間、親王は一貫して無実を訴えて断食、そのために淡路島へ向かう途中、河内国で憤死したと歴史は伝えている。実際に事件に関わったのかどうかも疑わしいとされ、原因は南都諸寺院との関わりや、藤原四家の権力争いに巻き込まれたとも類推されているが、彼の怨念は桓武天皇とその治世に



崇道天皇社

大いに祟ったらしく、延暦 19 年(800)に、崇道天皇と追称された。富士山大噴火を記録するのが同じ延暦 19 年(800)で、その年の 6 月 3 日に太政官牒状でそれまでの山名「福地山」を「富士山」としていることから、この年の大噴火とそれに伴う大地震被害が桓武天皇には大いに堪えたのではあるまいか。早良親王を崇道天皇と追称し、午後から訪れることになっている八島町の「崇道天皇八島陵」を造営、延暦 24 年(805)には淡路島の山陵から親王の遺骸を改葬したという。

僕は、奈良町御霊神社とともに南都二大御霊社である崇道天皇社にお参りし、改めて早良親王に鎮魂の祈りを捧げた。八島陵へは「京終駅」から桜井線(まほろば線)で一駅、「帯解駅」で降り、東の山塊へ向かって徒歩 30 分弱の道のりだ。帯解寺でひとまず解散となり、その後の八島陵への道程は参加自由とされていたが、やはり、ここで拝んでおかねば今日の文学散歩は終わらない気がした。帯解でのコース後半の廣大寺池、龍象寺、帯解寺は、テーマからは外れるが駅から近く、「せっかくだから」のおまけの見学地である。前者の龍象寺は聖武天皇と行基

菩薩の開基とあり、後者は空海の師でもある勤操僧正の開基を伝えており、いずれも子授け、安産祈願を謳うお寺である。寺の開基者から類推すると龍象寺の方が古いが、どちらが早く子授け・安産祈願の寺と喧伝したのかは不明である。

その二ヶ寺拝観の間に、南部公民館で田中先生の講演をたつぷりと聞いた。以上で纏めた報告も、その田中先生の講演録を抜粋したようなものだが、帯解寺で解散の後、僕は殆どの参加者と同じく、八島陵への道を進んだ。東の山肌に沿って「山の辺の道」が通じているそうだが、崇道天皇八島陵はその西側にあった。御陵の真ん前に、封土が失われ石室の天井石などが露出した古墳があり、他の古墳とは違った様相である。近隣では、この巨石群を「八つ石」と呼んでおり、伝説では早良親王が亡くなられる際に石を9つ投げ、落ちたところに葬って欲しいと告げて絶命し、それらのうちの8つがこの地で見つかり、親王の陵が当地で造営



田中先生の講演



崇道天皇八島陵へ向かう道

されたという。一説にはこの辺りの地名「八島」の由来ともなったとされている古墳跡である。実際には古墳時代後期の造営で、それが崩れたものようで早良親王とは時代が違いすぎる。だが、「八つ石」は、淡路島への配流の途中、49歳で非業の死を遂げた早良親王に相応しい伝説ではないか、と思った。なお、早良親王は、崇道天皇と追称されているが、皇位継承をしていないため皇統(歴代天皇)には加えられていない。僕は、正に深々と御陵にお参りした。そしてここで、田中先生の話、怨霊になった人々の殆どは、藤原一族の権力争いの犠牲になった人たちの霊魂だと改めて思うに至った。

<報告：田淵浩一>